

2007年8月期第3四半期業績 及び業績見通し

松下 正
株式会社ファーストリテイリング
取締役

1

取締役の松下です。
2007年8月期 第3四半期の業績についてご説明します。

1Q～3Q (9ヶ月累計) 売上高: 4,112億円 (前年同期比 + 18.8%)
 営業利益: 593億円 (前年同期比 5.0%)
 経常利益: 595億円 (前年同期比 7.2%)

単位: 億円

	1Q～3Q (06/9～07/5)			3Q (07/3～07/5)		
	実績	前年実績	前年同期比	実績	前年実績	前年同期比
売上高 (売上比)	4,112 100.0%	3,461 100.0%	+ 18.8%	1,270 100.0%	1,074 100.0%	+ 18.2%
売上総利益 (売上比)	1,950 47.4%	1,651 47.7%	+ 18.1% (- 0.3p)	634 49.9%	526 49.0%	+ 20.3% (+ 0.9p)
販管費 (売上比)	1,357 33.0%	1,027 29.7%	+ 32.1% (+ 3.3p)	472 37.2%	357 33.3%	+ 32.0% (+ 3.9p)
営業利益 (売上比)	593 14.4%	624 18.0%	5.0% (- 3.6p)	161 12.7%	168 15.7%	4.3% (- 3.0p)
経常利益 (売上比)	595 14.5%	641 18.5%	7.2% (- 4.0p)	169 13.3%	169 15.8%	0.3% (- 2.5p)
当期純利益 (売上比)	316 7.7%	357 10.3%	11.5% (- 2.6p)	89 7.0%	91 8.5%	2.6% (- 1.5p)

2

まず、2007年第3四半期の連結業績についてご説明いたします。

第3四半期累計では、売上高は4,112億円、前年同期比18.8%増、
 営業利益593億円、前年同期比5.0%減、
 経常利益は595億円、前年同期比7.2%減、
 当期純利益は316億円、前年同期比11.5%減となりました。

次のページで、連結の損益状況につき、少し詳しくご説明します。

売上高 4,112億円 (前年同期比 +18.8%、+651億円)

- 国内ユニクロ事業 新規出店・既存店による売上増 +295億円
- フランス事業 プティ ヴィクル+64億円、コントワー・デ・コトニエ事業 +53億円
- 連結子会社増加 キャビン+167億円、ジーユー +25億円

売上高総利益率 47.4% (前年同期比 0.3p)

- 国内ユニクロ事業の売上高総利益率の低下

売上高販管費率 33.0% (前年同期比 +3.3p)

- 連結子会社増による販管費率上昇 +1.7p
- 国内ユニクロ事業の販管費率上昇 +0.9p
- のれん償却 +27億円 +0.7p

営業利益率 14.4% (前年同期比 3.6p)

経常利益率 14.5% (前年同期比 4.0p)

まず売上高は4,112億円と、651億円の増収となりました。

増収の主な要因は、国内ユニクロ事業の295億円の売上増、フランス事業におけるプティ ヴィクル社の新規連結の増収を含む、64億円の売上増、コントワー・デ・コトニエ事業の53億円の売上増、キャビンの新規連結167億円、同じくジーユーの25億円などです。

売上高総利益率は47.4%と前年同期比で0.3ポイント低下いたしました。これはおもに、上期に国内ユニクロの売上高総利益率が低下したことが要因です。

売上高販管費率は、前年同期比で3.3ポイント上昇しております。このうち、販管費率が比較的高い子会社が増えたことによる上昇が1.7ポイント、国内ユニクロ事業の経費増による上昇が0.9ポイント、昨年のM&Aにともなうのれん償却の上昇が0.7ポイントとなっております。

なお、のれん償却は、昨年から27億円増加し、31億円となっております。

これらの結果、経常利益率は14.5%となりました。

株式会社ユニクロ

3Q 売上高総利益率は計画並み、 売上未達により減益

単位：億円

	1Q～3Q (06/9～07/5)			3Q (07/3～07/5)		
	実績	前年実績	前年同期比	実績	前年実績	前年同期比
売上高 (売上比)	3,361 100.0%	3,065 100.0%	+ 9.6%	1,018 100.0%	919 100.0%	+ 10.8%
売上総利益 (売上比)	1,531 45.6%	1,439 47.0%	+ 6.4% (- 1.4p)	488 47.9%	440 47.9%	+ 10.8% (0.0p)
販管費 (売上比)	968 28.8%	849 27.7%	+ 14.0% (+ 1.1p)	332 32.7%	283 30.8%	+ 17.5% (+ 1.9p)
営業利益 (売上比)	562 16.7%	589 19.2%	4.6% (- 2.5p)	155 15.3%	157 17.1%	1.3% (- 1.9p)

(注) 国内ユニクロ事業の業績は、2007年8月期より㈱ユニクロの数値を開示しています。この数値と対応させるため、2006年8月期の㈱ユニクロの実績値は、2005年9月から2005年10月の2ヶ月間の旧㈱ファーストリテイリング単体の実績に、2005年11月以降の㈱ユニクロの実績を加算しております。(2006年7月13日発表の第3四半期スライドに掲載しておりました国内ユニクロ事業の社内管理数値には、2005年8月期との比較のため、持株会社である㈱ファーストリテイリングの販管費が含まれています) ㈱ユニクロの2006年8月期業績数値については、本説明スライド23番をご参照ください。

次に、国内ユニクロ事業について、ご説明いたします。

第3四半期累計では、売上高は3,361億円、前年同期比9.6%増、
営業利益562億円、前年同期比4.6%減となりました。

第3四半期3ヶ月間における売上高は1,018億円、前年同期比10.8%増、
営業利益では155億円、前年同期比1.3%減の増収減益となりました。

第3四半期3ヶ月間の売上高総利益率はほぼ計画通りに推移いたしましたが、
売上高が計画を約30億円下回ったことから、
営業利益は前年同期比で1.3%減となりました。

3Q 売上高: 1,018億円 (前年同期比 +10.8%)

- ユニクロ直営店 前年同期比 32店舗増 (07年5月末 730店舗)
- 既存店売上高 3Q 前年同期比 +3.7% (1Q~3Q累計:前年同期比+3.1%)
 - 客数 前年同期比 +0.0% 3月のジーンズ、4月の麻キャンペーン商品好調
5月後半は気温の低下などにより伸び悩み
 - 客単価 前年同期比 +3.7% 高機能・高付加価値商品の投入
一品単価の比較的高いボトムスが好調

既存店 前年比増減率	2007年8月期					
	上期計	3月	4月	5月	3Q 計	6月
売上高	+2.9%	+7.4%	+6.9%	2.1%	+3.7%	1.3%
客数	+2.7%	+2.7%	+2.9%	4.9%	+0.0%	3.3%
客単価	+0.2%	+4.5%	+3.8%	+2.9%	+3.7%	+2.1%

F C店 18店舗を除く

5

国内ユニクロ事業の第3四半期3ヶ月間の売上高は、前年同期比で10.8%の増加となりました。これは、店舗数が32店舗増加したこと、既存店売上高が3.7%伸びたことによるものです。

また第3四半期には、1000坪級の大型店2店舗を含み、8店舗の大型店をオープンしております。

既存店増収の理由は、客数を前年並みに維持しながら、客単価が前年同期比で3.7%上昇したことです。客数は、3月のジーンズキャンペーンや4月の麻キャンペーンが好調だったことなどから増加傾向にありましたが、5月後半の気温の低下やクールビズ商品のたちあがりの遅れから、第3四半期全体では横ばいにとどまりました。

客単価については、素材やデザインにこだわった、高機能・高付加価値商品や、一品単価の比較的高いボトムスなどの商品の売れ行きが好調であったことなどから、第3四半期は、前年同期比で3.7%上昇しました。

3Q 売上高総利益率： 47.9% (前年同期比 0.0p)

- 数値計画機能の強化
- 生産・値引販売のコントロール

つぎに第3四半期の売上高総利益率ですが、
47.9%と前年同期で横ばいと、
ほぼ計画通りの数値となりました。

上期に売上高総利益率が低下したという反省を踏まえ、
3月に組織改革をおこない、数値計画機能の強化をはかりました。

この新体制により、生産と値引販売を、より厳格にコントロールすることができ、
第3四半期ではほぼ計画どおりの売上高総利益率を確保しました。

3Q 売上高販管費率: 32.7% (前年同期比 + 1.9p)

- 人件費率 +1.1ポイント: 店舗スタッフの正社員化、
新卒採用に伴う給与、求人費増など
- 広告宣伝費率 +0.6ポイント: 電波料(テレビ広告関連)の増加
- 賃借料率 0.1ポイント: 家賃比率の上昇 +0.1p
(都心ビルイン型、SC型の出店)
リース料の減少 0.2p
(店舗什器など)

7

つぎに販管費ですが、対売上高比率で1.9ポイント上昇しているものの、金額ベースでは計画を下回っております。

対売上高比率1.9ポイント上昇のうち、1.1ポイントが人件費の増加によるものです。これは主に、店舗スタッフの正社員化、新卒採用にともなう給与、求人費の増加によるものです。

広告宣伝費率は、電波料の増加により0.6ポイント上昇しております。

また、賃借料率は、家賃比率は0.1ポイント上昇しておりますが、リース料率が0.2ポイント低下したため、賃借料全体の対売上高比率は0.1ポイント低下しております。

単位:億円

	ジーユー		ワンゾーン		FR フランス 1	
		売上比		売上比	{仏国}	売上比
連結対象期間	06/9～07/5		06/9～07/5		06/9～07/5	
売上高	25.5	100.0%	150.2	100.0%	270.0	100.0%
営業利益	10.6	-	12.5	-	63.2	23.4%

	キャビン		アスベジ・ジャパン		リンク・セオリー・HD		ビューカンパニー	
		売上比		売上比	売上比			売上比
連結対象期間	06/9～07/5		06/9～07/5		06/9～07/5		06/12～07/5	
売上高	167.6	100.0%	5.7	100.0%	持分法適用/営業外損益		持分法適用/営業外損益	
営業利益	1.7	1.1%	1.1	-	14.3	2	0.8	3

- FRフランスには、コントワー・デ・コトニエ事業、プリンセス タム・タム事業等の業績が含まれています。
- 営業外損益として、リンク・セオリー・ホールディングスの「持分法による投資損益(06/9～07/5)」 14.3億円を計上しています。
- 営業外損益として、ビューカンパニーの「持分法による投資損益(06/12～07/5)」 0.8億円を計上しています。
(内訳: 同社期間損益相当 0.3億円、同社株式取得にともなう投資差額償却 0.5億円)

8

次に、主な連結対象会社の業績についてコメントいたします。

ジーユーでは、3月から5月までの3ヶ月間に25店舗を出店し、年間計画の50店舗の出店を完了いたしました。しかし、売上高が計画を大きく下回ったことから、損益面でも厳しい状況となりました。ウィメンズの構成比を高めるなどの営業努力をいたしましたが、ブランド、店舗の認知度がまだ低く、売上をのばすことができておりません。

ワンゾーンでは、店舗オペレーションの標準化、業務の効率化を進めてまいりましたが、新学期・新生活がスタートする需要最盛期の3月に売上を落とし、既存店減収となったことなどから、第3四半期は赤字拡大という厳しい結果となりました。

次にコントワー・デ・コトニエとプリンセス タム・タムを傘下にもつ、FRフランスの業績ですが、売上高、営業利益ともに、計画を上回る数値を達成することができました。コントワー・デ・コトニエ事業、プリンセス タム・タム事業も順調に推移しております。

キャビンにつきましては昨日、第1四半期の業績開示がありました。9月から5月の9ヶ月間の業績は売上高167億円、営業利益1億7千万円となっております。

持分法適用関連会社については、リンク・セオリー・ホールディングスにおいて、ドイツ、ロースナー社の買収に伴うのれん等の一括償却が中間期に実施され、業績の大幅な下方修正があったため、「持分法による投資損失」として14億円、ビューカンパニーの「持分法による投資損失」として8千万円を計上しております。

単位：億円

	UNIQLO (U.K.)		FRJS		UNIQLO USA		FRL Korea		UNIQLO H.K.	
	【英国】	売上比	【中国】	売上比	【米国】	売上比	【韓国】	売上比	【香港】	売上比
連結対象期間	06/9～07/5		06/7～07/3		06/9～07/5		06/9～07/5		06/9～07/5	
売上高	28.6	100.0%	19.0	100.0%	26.7	100.0%	34.4	100.0%	17.8	100.0%
営業利益	2.6	-	1.6	8.7%	11.9	-	2.7	8.0%	4.7	26.7%

中国におけるユニクロ事業は、2006年12月にFRCN「迅銷(中国)商貿有限公司」を設立しており、2007年8月期中に、FRJS「迅銷(江蘇)服飾有限公司」から、新会社FRCNへ順次移行し、2007年8月期末までには完了する予定です。新会社FRCNの実績は、連結決算上では第3四半期より反映させており、上記のユニクロ中国事業実績には、FRJSとFRCNの実績数値の合算を掲載しております。

9

続きまして、海外ユニクロの業績についてご説明します。

英国事業の第3四半期は、売上、利益とも計画を下回る結果となりました。

中国、香港事業は売上・利益とも順調に推移し、計画を達成することができました。

米国は、ニューヨーク・ソーホーのグローバル旗艦店の売上が春シーズンも順調に推移したことから、売上・営業損益ともに計画通り推移しました。

韓国事業は前年に比べて大きく売上を伸ばし、ほぼ計画どおりとなっています。

特別利益 + 19億円

- キャビン 固定資産売却益 + 13億円
- ワンゾーン 店舗敷金保証金 貸倒引当金戻入 + 2億円

特別損失 20億円

- 固定資産除却損、店舗閉店損失 (国内ユニクロ、キャビン等) 7億円
- 店舗資産の減損損失 (ワンゾーン、キャビン、米国ユニクロ) 9億円

第3四半期までの9ヶ月累計の特別損益については、特別利益19億円、特別損失20億円を計上しています。

特別利益の内訳は、キャビンの固定資産売却益13億円、ワンゾーンの店舗敷金・保証金に対する貸倒引当金の戻入2億円などです。

特別損失の内訳は、ユニクロやキャビンなどの退店やリニューアルに伴う除却損7億円、ワンゾーン、キャビン、米国ユニクロにおける店舗資産の減損損失9億円などです。

	2006年8月末	2007年5月末	増 減
総資産	3,796	4,087	+290
流動資産	2,503	2,703	+200
固定資産	1,293	1,383	+90
負債	1,391	1,379	11
純資産	2,404	2,707	+302

次に第3四半期末の連結バランスシートのご説明をいたします。

2006年8月末との比較では、流動資産が200億円、固定資産が90億円増えたことから、総資産は4,087億円と290億円の増加となりました。

現金・預金 及び有価証券 57億円 (1,471億円 1,414億円)

- 【国内ユニクロ等】店舗設備投資、配当金支払、法人税等の納税のタイミング等

たな卸資産の増加 +86億円 (428億円 515億円)

- 【国内ユニクロ】 +63億円 (前年同期比 +80億円) 【ジーユー】 +7億円

有形固定資産の増加 +64億円 (298億円 363億円)

- 【国内ユニクロ】 +27億円 【米国ユニクロ】 +12億円 【ジーユー】 +9億円

敷金・保証金の増加 +31億円 (296億円 327億円)

- 【国内ユニクロ】 +21億円

まず、流動資産ですが、現金・預金及び有価証券の合計額は、8月末比で57億円減少しております。これはおもに、店舗設備投資、配当金の支払いが発生したほか、法人税等の納税のタイミングにより、営業キャッシュフローの増加が一時的に少なくなっていることによるものです。

次に、たな卸資産は、8月末比で86億円増加しております。この内訳としては、国内ユニクロの在庫の増加が63億円、ジーユーの新規連結による増加が7億円などです。

国内ユニクロの在庫は、前年同期比では80億円増加しています。これはおもに、店舗数が増えたことによるもの、ジーンズなど売れ筋の定番品を積みましたことによるものなどです。

有形固定資産については、8月末比で64億円増加しております。国内ユニクロの出店による増加が27億円、米国のソーホー ニューヨーク店の出店などともなう資産の増加が12億円、ジーユーの出店による増加が9億円です。

また、敷金・保証金が31億円増加しております。このうち21億円が、国内ユニクロの店舗に関連する増加です。

株式会社ユニクロ 下期業績予想

(変更なし)

単位: 億円

	2006年8月期	2007年8月期下期	
	下期 実績	予想 (4/12修正)	前年同期比
売上高 (売上比)	1,789 100.0%	2,012 100.0%	+ 12.5%
売上総利益 (売上比)	830 46.4%	949 47.2%	+ 14.3% (+ 0.7p)
販管費 (売上比)	574 32.1%	644 32.0%	+ 12.2% (0.1p)
営業利益 (売上比)	256 14.3%	304 15.1%	+ 18.8% (+ 0.8p)

(注) 国内ユニクロ事業の業績については、2007年8月期より、㈱ユニクロの業績数値を開示しています。この数値と対応させるため、2006年8月期の実績値は、2005年9月から2005年10月の2ヶ月間の旧㈱ファーストリテイリング単体ベースの実績に、2005年11月以降の㈱ユニクロの実績を加算した数値となっております。㈱ユニクロの2006年8月期業績数値については、本説明スライド23番をご参照ください。

13

ここからは、2007年8月期の業績予想についてご説明します。

株式会社ユニクロの2007年8月期下期の業績予想は、
売上高2,012億円、営業利益304億円としております。

第3四半期3ヶ月間では売上・利益とも計画を下回っておりますが、
売上高総利益率については、
ほぼ計画どおりの水準でコントロールすることができました。

第4四半期についても、売上高総利益率を注視しながら、
秋物を早期に投入し、シーズンの切り替えを早める計画です。



【国内ユニクロ】 2007年8月期通期 業績予想

株式会社ユニクロ 通期業績予想

(変更なし)

単位: 億円

	2006年 8月期 実績	2007年8月期通期	
		予想 (4/12修正)	前期比
売上高 (売上比)	3,936 100.0%	4,355 100.0%	+ 10.7%
売上総利益 (売上比)	1,829 46.5%	1,992 45.7%	+ 8.9% (0.8p)
販管費 (売上比)	1,140 29.0%	1,280 29.4%	+ 12.2% (+ 0.4p)
営業利益 (売上比)	688 17.5%	712 16.3%	+ 3.4% (1.2p)

(注) 国内ユニクロ事業の業績については、2007年8月期より、(株)ユニクロの業績数値を開示しています。この数値と対応させるため、2006年8月期の実績値は、2005年9月から2005年10月の2ヶ月間の旧(株)ファーストリテイリング単体ベースの実績に、2005年11月以降の(株)ユニクロの実績を加算した数値となっております。(2006年7月13日発表の第3四半期スライドに掲載しておりました国内ユニクロ事業の社内管理数値には、2005年8月期との比較のため、持株会社である(株)ファーストリテイリングの販管費が含まれています) (株)ユニクロの2006年8月期業績数値については、本説明スライド23番をご参照ください。 14

したがいまして、通期の株式会社ユニクロの業績予想につきましても、4月12日の決算発表時の売上高4,355億円、前期比10.7%増、営業利益712億円、前期比3.4%増から変更しておりません。

【国内ユニクロ】業績予想の前提

	2006年8月期			2007年8月期			前期比			
	実績			予想						
売上高	3,936 億円			4,355 億円			+10.7%			
既存店伸び率	+0.7%			+3.3%			+2.6p			
売上高総利益率	46.5%			45.7%			0.8p			
通期	46.5%			44.5%			2.0p			
上期(実績)	46.5%			44.5%			2.0p			
下期	46.4%			47.2%			+0.8p			
出退店数(直営店)	出店	退店	純増	出店	退店	純増	出店	退店	純増	
通期	84	45	+39	75	47	+28	9	+2	11	
(店舗)	大型店	4	0	+4	21	0	+21	+17	0	+17
	標準店等	71	45	+26	52	47	+5	19	+2	21
	専門店	9	0	+9	2	0	+2	7	0	7
上期(実績)	44	26	+18	38	28	+10	6	+2	8	
大型店	4	0	+4	10	0	+10	+6	0	+6	
標準店等	35	26	+9	28	28	0	7	+2	9	
専門店	5	0	+5	0	0	0	5	0	5	
下期	40	19	+21	37	19	+18	3	0	3	
大型店	0	0	0	11	0	+11	+11	0	+11	
標準店等	36	19	+17	24	19	+5	12	0	12	
専門店	4	0	+4	2	0	+2	2	0	2	

ユニクロ直営店出店数のうち、標準店等にエキナカ・エキチカのユニクロ小型店も含まれます。

また専門店には、ウイメンズインナー専門店「BODY by UNIQLO」、キッズ専門店「ユニクロ キッズ」を含みます。

15

こちらのスライドで業績予想の前提を一覧にしておりますので、ご参照ください。

既存店売上高前年比については、下期3.9%増、通期3.3%増を変更しておりません。

出退店数につきましても、

下期で純増18店舗、通期で純増28店舗の予想に、変更はありません。

大型店の出店は計画どおりにすすんでおり、通期で21店舗の出店となる見込みです。

ショッピングセンター、都心近郊へ出店

- 集客力のある大型ショッピングセンターに積極的に出店
 - ラゾーナ川崎店、ららぽーと豊洲店など
- 都心近郊の生活圏にも需要



ユニクロ世田谷千歳台店

- 5/25オープン
- 環状8号線沿い、駐車場200台
- 住宅地の都心ビルイン型
- 売場面積1フロア900坪

**標準店を大きく上回る
滞在時間と客単価**

16

ここで、大型店戦略の進捗と取り組みについてお話ししたいと思います。

国内ユニクロ事業においては、事業構造改革の一環として、大型店を新しいユニクロを作る成長エンジンとして位置づけ、立地・商品の見直しなどさまざまな取り組みを通じて、集客力・客単価のアップや、顧客層の拡大に努めてまいりました。

まず、立地ですが、近年多様な立地での業態開発をすすめてきた中で、集客力のある大型ショッピングセンター内の出店に注力してまいりました。その結果、今期出店したラゾーナ川崎店、ららぽーと豊洲店などの広域ショッピングセンター内の大型店では、安定的に集客ができています。

また、都心近郊の生活圏にも、潜在的なユニクロ商品への需要があると考えています。

5月25日、世田谷の住宅地の一大生活圏に、売場面積900坪の超大型店をオープンしました。この世田谷千歳台店は、売上も順調に推移しており、標準店と比べると、お客様ひとりあたりの滞在時間が長く、客単価が5割程度高くなるという傾向がみられます。

ウィメンズの拡大、コア商品拡充、コーディネート提案

- ウィメンズ商品の拡大
- コア商品の色・サイズ拡充による販売機会ロスの軽減
- VMD(ビジュアル・マーチャンダイジング)による着こなしの提案

世田谷千歳台店



ウィメンズ ポロシャツ売場



スポーツ関連商品のVMD

17

つぎに、大型店の商品についてですが、従来の標準店以上にウィメンズ商品の構成比を高め、また、コア商品の色・サイズ拡充により販売機会ロスを軽減し、ビジュアル・マーチャンダイジングにより着こなしの提案を行っております。

大型店では売場面積が標準店に比べて2倍から3倍に拡大したことにもない、ウィメンズ商品の拡充を進めています。

例えば、世田谷千歳台店では、ウィメンズ売場の面積の比率を従来の標準店の約4割から5割に拡大しております。このため、標準店では十分に展開できなかったインナーや、ファッション性を高めた商品、きれいめのオフィスウェアなどを揃えることが可能になりました。

また、スライド左のウィメンズ、ポロシャツ売場の写真でもご覧いただけますように、大型店ではコア商品のサイズ、色とも十分な品揃えが可能です。

これまでの課題だったコーディネートでの着こなし提案についても、広い店内を活用したビジュアルマーチャンダイジングにより、スポーツ、プリントTシャツ、デニム、きれいめコーディネートなど、商品群ごとの訴求がしやすくなりました。

スライドの右の写真は、世田谷千歳台店のスポーツコーナーですが、ドライの定番商品を生活シーンにあわせたコーディネートで提案しています。

単位: 億円

	ジーユー		ワンゾーン		FRフランス ¹	
	売上比		売上比		【仏国】	売上比
連結対象期間	06/9～07/8		06/9～07/8		06/9～07/8	
売上高	35.1	100.0%	203.1	100.0%	345.4	100.0%
営業損益	15.1	-	16.9	-	65.5	19.0%

	キャビン		アスベジ・ジャパン		リンク・セオリー・HD		ビューカンパニー	
	売上比		売上比		売上比		売上比	
連結対象期間	06/9～07/8		06/9～07/8		06/9～07/8		06/12～07/8	
売上高	228.5	100.0%	9.3	100.0%	持分法適用/営業外損益		持分法適用/営業外損益	
営業損益	3.1	1.4%	1.2	-	20.0	2	2.2	3

- FRフランスの数値には、コントワー・デ・コトニエ事業、プリンセス タム・タム事業等の業績が含まれています。
- 営業外損益として、リンク・セオリー・ホールディングスの「持分法による投資損益(06/9～07/8)」 20.0億円の計上を予想しています。
- 営業外損益として、ビューカンパニーの「持分法による投資損益(06/12～07/8:9ヶ月間)」 2.2億円の計上を予想しています。
(内訳:同社期間損益相当 1.5億円、 同社株式取得に伴う投資差額償却 0.7億円)
- 2007年8月期通期ののれん償却金額は、42億円を予定しています。

18

次に、連結対象会社の通期の業績予想についてコメントいたします。

ジーユーは、第3四半期までの業績を踏まえ、売上高35億円、営業損失15億円に変更いたしました。今後は、より広い年齢層のお客様に向けたウイメンズのファッション商品を強化していくとともに、広報・プレス活動を展開し、ブランドと店舗の認知度を高めていきたいと考えております。

ワンゾーンの通期の業績予想につきましては、第3四半期の業績を反映し、通期でも予想を変更いたしました。

FRフランスの業績については、コントワー・デ・コトニエ事業、プリンセス タム・タム事業ともに順調に推移していることから、売上高345億円、営業利益65億円の通期予想から変更はありません。

キャビンは、昨日の業績発表のとおり、売上高228億円、営業利益3億円から変更はありません。

リンク・セオリー・ホールディングスにつきましては、持分法による投資損失により、通期で20億円の営業外損失としております。

ビューカンパニーの持分法による投資損失につきましては、6月20日に発表がありました同社の期間損益、および、同社株式取得にともなう投資差額を反映し、通期で2億円の損失としております。

(変更なし)

単位: 億円

	UNIQLO (U.K.)		FRJS+FRCN		UNIQLO USA		FRL Korea		UNIQLO H.K.	
	[英国]	売上比	[中国]	売上比	[米国]	売上比	[韓国]	売上比	[香港]	売上比
連結対象期間	06/9 ~ 07/8		06/7 ~ 07/6		06/9 ~ 07/8		06/9 ~ 07/8		06/9 ~ 07/8	
売上高	44.0	100.0%	23.3	100.0%	33.9	100.0%	43.8	100.0%	22.3	100.0%
営業損益	4.2	-	1.2	5.1%	13.6	-	1.5	3.6%	4.8	21.6%

中国におけるユニクロ事業は、2007年8月期中に、FRJS「迅銷(江蘇)服飾有限公司」から、新会社であるFRCN「迅銷(中国)商貿有限公司」へ順次移行する予定です。業績予想については、FRJSとFRCNの業績予想数値の合算を掲載しております。

海外ユニクロ事業については、ほぼ計画どおりの進捗であることから、4月に発表した業績からは変更しておりません。

英国事業は、秋にオープンする大型店2店舗の出店コストを加味した数値となっております。

米国につきましては、ソーホー ニューヨーク店の出店コストなどを含め、約13億円の営業損失を予想しております。

中国、韓国事業につきましては、好調が続いておりますので、計画を上回る可能性が高くなっております。

単位：億円

	2006年	2007年8月期		2007年8月期		
	8月期実績	直近予想 (4/12修正)	前期比	予想 (7/12修正)	前期比	直近予想比
売上高 (売上比)	4,488 100.0%	5,382 100.0%	+ 19.9%	5,351 100.0%	+ 19.2%	0.6%
売上総利益 (売上比)	2,124 47.3%	2,553 47.4%	+ 20.2% (+ 0.1p)	2,539 47.5%	+ 19.6% (+ 0.2p)	0.5% (+ 0.1p)
販管費 (売上比)	1,420 31.7%	1,819 33.8%	+ 28.0% (+ 2.1p)	1,818 34.0%	+ 28.0% (+ 2.3p)	0.0% (+ 0.2p)
営業利益 (売上比)	703 15.7%	734 13.6%	+ 4.4% (- 2.0p)	721 13.5%	+ 2.6% (- 2.2p)	1.8% (- 0.1p)
経常利益 (売上比)	731 16.3%	721 13.4%	1.4% (- 2.9p)	707 13.2%	3.3% (- 3.1p)	1.9% (- 0.2p)
特別損益 (売上比)	3 0.1%	5 0.1%	- (- 0.0p)	5 0.1%	- (- 0.0p)	- (+ 0.0p)
当期純利益 (売上比)	404 9.0%	381 7.1%	5.6% (- 1.9p)	368 6.9%	8.8% (- 2.1p)	3.5% (- 0.2p)

(注) 【連結】 2006年8月期通期 実績：設備投資額 162億円、減価償却費 54億円
2007年8月期通期 予想：設備投資額 180億円、減価償却費 60億円

20

以上の子会社の変更を踏まえ、通期の連結業績予想については、
売上高5,351億円、前期比19.2%増、
営業利益721億円、前期比2.6%増、
経常利益は707億円、前期比3.3%減、
当期純利益は368億円、前期比8.8%減といたします。

2007年8月期 年間配当金 140円を予想

	2006年8月期(実績)		2007年8月期(予想)			
		中間	期末	中間 (実績)	期末 (予想)	
1株配当金	130円	65円	65円	140円	70円	70円

業績や資金需要に大きな変動が生じた場合、配当金額を変更することがあります。

なお、2007年8月期の配当金については、年間140円の予想を変更しておりません。

【単位：店舗】	06年8月 期末	07年2月 中間期末	2007年第3四半期						2007年8月期 通期 予想				
			3Q (07/3~5)			1Q~3Q (06/9~07/5)			期末	出店	退店	純増減	期末
			出店	退店	純増減	出店	退店	純増減					
ユニクロ事業合計	750	770	32	14	+18	82	44	+38	788	92	52	+40	790
国内ユニクロ事業:	720	731	29	12	+17	68	40	+28	748	76	47	+29	749
直営店 ¹	703	713	29	12	+17	67	40	+27	730	75	47	+28	731
大型店	7	17	8	0	+8	18	0	+18	25	21	0	+21	28
標準店等	687	687	19	12	+7	47	40	+7	694	52	47	+5	692
専門店	9	9	2	0	+2	2	0	+2	11	2	0	+2	11
FC	17	18	0	0	0	1	0	+1	18	1	0	+1	18
海外ユニクロ事業:	30	39	3	2	+1	14	4	+10	40	16	5	+11	41
英国:	8	9	3	1	+2	4	1	+3	11	4	1	+3	11
中国: ²	7	9	0	0	0	2	0	+2	9	2	0	+2	9
米国:	4	5	0	1	1	3	3	0	4	3	4	1	3
韓国:	10	14	0	0	0	4	0	+4	14	4	0	+4	14
香港:	1	2	0	0	0	1	0	+1	2	3	0	+3	4
ジーユー事業	-	25	25	0	+25	50	0	+50	50	50	0	+50	50
ワンソーン事業	330	329	6	1	+5	20	16	+4	334	20	19	+1	331
コントワー・デ・コトニエ事業	244	274	22	0	+22	54	2	+52	296	59	2	+57	301
プリンセス タム・タム事業 ²	100	107	14	0	+14	23	2	+21	121	32	2	+30	130
キャビン事業	201	213	7	3	+4	28	12	+16	217	28	13	+15	216
アスベジ事業	7	9	3	0	+3	5	0	+5	12	5	0	+5	12
総 合 計	1,632	1,727	109	18	+91	262	76	+186	1,818	286	88	+198	1,830

1 ユニクロ直営店のうち、標準店等にはエキナカ・エキチカのユニクロ小型店も含まれます。

また専門店には、ウイメンズインナー専門店「BODY by UNIQLO」、キッズ・ベビー専門店「ユニクロ キッズ」を含みます。

2 決算期が異なるため、ユニクロ中国事業及びプリンセス タム・タム事業の店舗数は、8月期末は6月末に、第3四半期末は3月末となります。

最後に、ご参考として、

・出退店の一覧表

・株式会社ユニクロとしての2006年8月期実績数値を
決算期毎にまとめましたので、

ご参照ください。

以上をもちまして、私からのご説明を終わります。

ありがとうございました。

単位: 億円

	2006年8月期 株式会社ユニクロ 実績			
	第1四半期	中間期	第3四半期	通期
売上高 (売上比)	1,094 100.0%	2,146 100.0%	919 100.0%	3,936 100.0%
売上総利益 (売上比)	517 47.3%	998 46.5%	440 47.9%	1,829 46.5%
販管費 (売上比)	288 26.4%	566 26.4%	283 30.8%	1,140 29.0%
営業利益 (売上比)	229 21.0%	432 20.1%	157 17.1%	688 17.5%